477　中央大学剣道部記事・増島博士還暦祝賀会・文学博士佐々講師逝く・広島学員会支部故奥田博士追悼式

〔『法学新報』第27巻11（314）号　大正6年12月5日〕

○中央大学剣道部記事　去る六月十日校舎焼失に羅り道場のみ其災を免れしも仮校舎の現在地へ建築せらるるや道場も建築の必要を生し築造中十月一日未明の大暴雨に因り倒壊し漸く十月二十四日落成するを得たり是より先き神戸関西学院高等学部剣道部員斯道修行の為め上京本部と対抗試合の申込あり二十五日午後一時より本部道場に於て挙行の事に決す関西軍は二十四日山内同校剣道師範と共に入京翌二十五日試合を挙行し本部の勝とはなりぬ当日は朝来強雨にも不拘来学せられたるを感謝す試

合の大要左の如し勝負は三本勝負の紅白試合にして中山今泉山内三師範の審判の下に開始せられたるか本学始めより優勢にして清水得意の面胴にて二人を倒し木南の為めに小手を抑へられたり川上代て面小手を打ちて木南井上の二氏を倒し関西軍の中堅西田の為めに破られ西田能く奮戦して松野を破り鳩谷と引分とは為りぬ本学の中野葛目の為めに破れ宮内出てて得意の面胴にて葛目上田石本の三人を倒し関西軍副将中尾の為めに小手を奪はれ萩原中尾を倒し関西軍大将長江に迫りしも胴を切られたるを以て山崎代り出て面を割りて本学軍は大将副将の不戦者を残して勝利を得たり而して試合終了後審判の諸師範及ひ両軍の戦士の為めに晩餐会を催し互に談し且つ歓を尽して散会したるは午後四時半なりき

又本部部員は去る十月三十一日（天長祝日）を期し第十二回剣道大会を挙行せり来会する者都下各大学専門学校及ひ中学師範学校の精鋭を集めたる選手百六十余名にして近年稀なる盛会なりき午前九時より開会し本部員の紅白勝負にては一等賞川上喜三氏二等賞黒石駿逸氏なりき中等諸学校の三本勝負二十組あり一本抜高点勝負にては郁文館中学校の根岸信吉氏七人を倒して一等賞（金牌）豊島師範学校の最上賢治氏及ひ独逸協会学校中学の北島辰二氏二等賞（銀牌）を得都新聞社寄贈の賞牌は郁文館中学校の飯田喜久氏の得る所と為れり午後は各大学専門学校の三本勝負あり太田部長の挨拶後本部員中野譲氏の長谷川英信流居合ありて無検証にての試合及ひ模範試合あり終て本部対各大学専門学校の紅白高点勝負ありて本部の勝と為りぬ而して一等賞（金牌）は明治大学の早稲田要衛氏の手に、二等賞（銀牌）は高等師範学校の林田敏貞氏本部の萩原銑次氏明治大学の長谷川建二氏海軍経理学校の清水新一氏の手に落つ尚都新聞社寄贈の賞牌は本部の清水彰氏之を得閉会したるは午後六時頃なりき特に当日は都新聞社より賞牌二箇を寄贈せられたるは吾人の深謝する所なり当日重なる番組左の如し（委員報）

（学校名なきは本部部員なり）

（有信　矢木參三郎
　　宮内巳之助）
（久警　村上長右衛門）
（早大　松隈吉郎）
（高師　林田敏貞）
（有信　山田順通）
（学員　高野直一）
（学員　長山三郎）
（早大　相浦英六）
（明大　田島二郎）
（明大　早稲田要衛）
（校友　伊能重雄）
（帝大　木村又一郎）
　　萩原銑次）
（錦警　近藤治三郎）
　　山崎祥次郎）

（有信　古市　保　　高師　藤原又藏
　　遠山寅雄　　愛宕　八塚利三郎）
（有信　牧　隆康　　大久保師範　櫻井師範
　　萱島　操　　橋本師範　檜山師範）

○増島博士還暦祝賀会　中央大学第一次の校長たりし法学博士増島六一郎氏は去る八月を以て六十一歳の高齢に達せられたるを以て博士の知友門弟発起と為り去月十七日午後四時より上野精養軒に於て還暦の祝賀会を開催したるか今博士の略歴を叙すれは博士は安政四年八月四日近江国彦根金亀城下に生る父は彦根藩士弓術の師藩（ママ）増島團右衛門君母は高木氏なり慶応元年九歳にして藩学に入り修学十四歳に至る明治三年上京外務省外国語学校、海野英学塾及ひ山東義塾に入り英学を修む六年開成学校に転し予科に入り九年大学本科に進み法律学を修め十二年七月卒業法学士と為る十三年高橋一勝君等と共に攻法館を設く十三年渡英しミッドル、テルプルに入り十六年六月其業を卒へて「バリストル、アト、ロウ」の称号を得爾来同国リバプウル、マンチエスター米国ニウヨルク、ボストン、シカゴ等に於て法律の実務を練習し十七年七月帰朝代言人と為り兼て帝国大学に教鞭を執る十八年東京代言人組合会長と為る同年菊池武夫岡村輝彦高橋一勝高橋健三山田喜之助元田肇奥田義人江木衷岡山兼吉等の同志と英吉利法律学校を設立し其校長と為り英国法律に基き法律応用の普及を謀る二十一年裁判粋誌を発行し判決例の模範を示す是れ実に本邦判決例の濫觴なり二十二年七月法律政紀を発行して斯学の裨益に勉む二十四年八月法学博士の学位を受く三十六年ニウヨルク州弁議士協会の招聘に応し一千九百三年の年会に於て日本法律に関する講演を為し同会の名誉会員に推薦せらる大正四年五月東京弁護士会常議員議長に選はる六年八月四日還暦に達せらる当日来会ありたるは朝野の法曹を始め三百五十余名にして博士は「バリストル」の正服を著し先つ一同記念撮影を為したる後定刻式に移る花井卓藏博士の報告に次き岸清一博士開会の辞を述へそれより杉浦重剛氏、日本弁護士協会代表者江木衷博士、東京弁護士会副会長高野金重氏、中央大学代表者岡野敬次郎博士、帝国大学門下有志総代鹽谷恒太郎氏、増島同門会総代平岡萬次郎氏の祝辞あり次て増島博士の叮嚀なる答辞を了るや原嘉道博士閉会の旨を述へそれより余興に移り夕刻より宴会場を開く富井政章博士、富谷東京控訴院長、米国弁護士チゾン氏、松尾清次郎氏等の面白き卓上演説ありて和気靄靄裡に終りを告けたるか頗る盛会なりし

○文学博士佐々講師逝く　中央大学講師文学博士佐々政一氏は去月十八日以来腸窒扶斯に罹り日本赤十字病院に入院治療中の処薬石効なく同二十五日午後四時永眠せられたり享年四十六葬儀は二十九日午後二時青山斎場に於て神式に依り執行せらる博士は京都府士族佐々政直氏の次男にして明治二十九年東京帝国大学文科大学を卒業し第二高等学校山口高等商業学校の教授を経て四十一年四月東京高等師範学校教授と為り四十五年文学博士の学位を授けられ傍ら中央大学予科に教鞭を執られたり博士は徳川時代の平民文学に精通し謡曲俳諧物語草紙等の如き軟文

学に付ては実に代表的の学者たりしか昊天斯人を哀ます忽焉として長逝せらる哀悼曷そ禁せん嗚呼悲哉

○広島学員会支部故奥田博士追悼式　去月二十八日故中央大学学長奥田博士の永逝百个日忌辰追悼法会を中央大学に於て開催の報に接したる当支部も亦同日午前九時広島市小町曹洞宗国泰寺に追悼法会を営む西澤佛海老師十余名の僧侶を引率して最も壮厳なる読経の式を行ひ学員一同焼香礼拝す了て後茶菓の饗を受け先生の遺影を拝し経歴書を披きて其追懐に時を移し退散せしは午前十一時なりし同日学員の参拝者は井上博、池田寛作、香川秀作、高田似壠、高久耕、高橋光次、高橋榮之助、松井繁太郎、小島孫三郎、佐藤五三、菅波鶴雄の諸子にして余儀なき差支の為め出席し能はさる者多かりしは遺憾とする所なり（理事報）